



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大規模畑作地帯における農家の生活構造（第2報）：社会文化行動と「場」の検討
Author(s)	松木, 靖
Citation	農業経営研究, 17, 57-74
Issue Date	1991-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36472
Type	departmental bulletin paper
File Information	17_57-74.pdf



大規模畑作地帯における

農家の生活構造（第2報）

－社会文化行動と「場」の検討－

松木 靖

- 1 はじめに
- 2 日常生活行動の年齢差－生活時間構成の年代別特徴
- 3 行事参加の特徴
 - 1) 行事・スポーツへの参加状況
 - 2) その他の行事・組織の参加状況
- 4 行事のもち方と参加度
 - 1) 集落の構造と行事
 - 2) 行事の参加度の規定要因
- 5 社会文化活動の場の重要性－農村生活の魅力を高めるために－

1 はじめに

われわれは、今後の農業経営のあり方は主体である農家の生活構造を含め論じる必要があるとの認識から、大規模畑作地帯に位置する北海道中札内村を対象に一連の生活実態調査を行ってきた。中心的位置を占めるのは生活時間調査であり、その経営形態別の検討を第1報として昨年公表した¹⁾。

第1報で取り上げた経営形態別の生活時間構成の分析では、経営形態・性別によって生活時間の構成、すなわち日常的な生活行動に大きな違いのあること。生活時間の構成は労働時間に規定され、経営形態による農業労働の違いと性別による家庭

内労働の分担関係に基づき生活時間構成の差がもたらされることが明らかになった。そこから浮かび上がった問題点²⁾の第1は長時間労働の存在であり、第2は経営形態の生活時間構成とその季節変動の大きな差という農村地域における農家のまとまりへの影響であった。有畜経営（混同・酪農）では年間を通じて長時間労働の実態にあり、飼料作・畑作（混同）の圃場作業時には1日10時間を超える実態にある。一方畑作経営は年間平均の労働時間が少なく非農家を下回るほどであるが、季節的な変動が大きく農繁期にはやはり10時間近い長時間労働になる反面、冬期間は労働時間が急減し半ば失業状態である。労働の中で家事は女子に集中しており、そのため男子よりも労働時間が長くなっている。

社会文化時間は、この二つの労働（農業・家事）の長さによって決定される構造にあり、まさに「余暇」としての残余の生活時間という性格を色濃く持っている。その内容が、農家ではテレビ視聴に集中しているのもこの裏返しとみられる。この様に、労働の長時間化は社会文化活動の時間と領域の減少をもたらしており、恒常的あるいは季節的にせよ長時間労働の存在は、文化的活動も含めた生活の再生産構造という視点から大いに問題であるとみられた。これが第3に指摘された問題であった。

本稿では、この第3の問題である社会文化的活動の領域とその内実をより掘り下げて検討することを主題としている。前稿の分析結果が示したのは日常生活行動における問題点であった。生活時間調査は日常的な生活行動を把握するために休日や行事開催日を意図的に外して実施しており、行事参加のような非日常的な社会文化的行動は把握されていないという限界があり、非日常的な行動も含めて検討する必要がある。また、社会文化的行動は、労働時間と異なり経営形態よりも年齢や世代による志向や活動領域の差が大きいと予想される。従って、これらの側面を加えてこの問題の実態が明かにされると考えるからである。

そこで、本稿ではまず生活時間調査の年代別集計を主として社会文化活動の側面に注目しながら分析し、年齢別の生活時間の特徴を明らかにし（第2節）、各種行事や組織の参加と合わせることで経営形態・世代別に地域における社会文化行動の特徴を把握する（第3節）。さらに、経営形態間の生活行動の差の上に生活行動の人々のまとまりや、行動の場がどう作られているかを、集落の農家構成と行事の開催の実態、村行事の内容と参加度の違いから検討することとする（第4節）。

2 日常生活行動の年齢差－生活時間構成の年代別特徴

図1～2は、年代別の年間の生活時間構成を男女別に示したものである。

生活時間構成を規定する労働時間の年代別変化として、この両図から捉えられる傾向の第一は、生活時間構成の高齢化が50代から起こってくるということである。50代以降、睡眠・休憩・食事・療養などの生理的時間が増加し、活動的時間が減少している。労働時間の減少は生理的時間の増加より多く、そのため社会文化時間が増加し60代が最も社会文化時間の長い世代となっている。このようにライフサイクルの中で生活時間の高齢化が50代から始まるということは、年齢別の社会教育活動や文化活動を考える上で考慮すべき傾向である。

第2の傾向は労働の主たる担い手としての年代に男女差があることである。男子は労働時間がピークに達するのは30から40代で、20代の労働時間はまだ多くなく社会文化時間は60代についで長い。女子は20代ですでに30代と同じ生活時間構成をとり、40代で労働時間の減少傾向がみられるとうように、変化が1年代若くなっている。これは女子の労働の約4割を占める家事労働の世代交替と、男子の労働時間の中心である農業労働の世代交替が異なっていることによるとみられる。女子は成人となるやいなや家庭・経営の労働の中心的存在として位置づけられ、20代男女の大きな差となっている。

以上の様に生活時間構成はライフサイクルによる変化がみられるが、それぞれの社会文化活動の特徴は以下のようになっている。

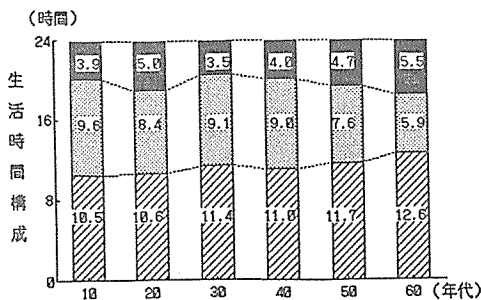


図1 年代別生活時間構成（農家男子）

注）10代の労働時間には「通学・自宅学習」を含む

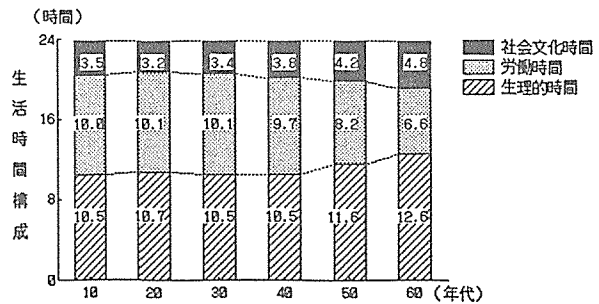


図2 年代別生活時間構成（農家女子）

注）10代の労働時間には「通学・自宅学習」を含む

表1 年代別の年間生活時間構成

(単位：時間)

		必要時間		労働時間		社会文化時間		
		睡眠	身の回り	農業労働	農外労働	家事	社会	文化
男子	12～19	8.3	2.2	0.5	0.5	0.1	0.2	3.8
	20～29	7.7	2.7	7.1	1.1	0.3	2.6	2.5
	30～39	8.4	3.0	8.3	0.4	0.4	1.2	2.3
	40～49	8.1	2.9	8.1	0.3	0.6	1.6	2.5
	50～59	8.5	3.2	6.9	0.2	0.5	1.2	3.5
	60以上	9.4	3.6	3.1	0.2	0.9	1.0	4.5
女子	12～19	7.9	2.6	0.5	2.0	1.2	0.3	3.2
	20～29	7.7	2.9	3.7	1.7	4.7	0.5	2.7
	30～39	7.6	2.9	5.3	0.3	4.5	1.2	2.2
	40～49	7.8	2.7	5.7	0.2	3.8	1.2	2.6
	50～59	8.5	3.2	3.7	0.0	4.5	0.9	3.3
	60以上	9.2	3.4	1.4	0.2	4.9	1.1	3.7

1) この他、通学時間などがあり、合計は24時間にならない

まず、労働の中心的担い手となる年代層（男子30～40代女子20～40代）では、社会文化時間が短い。女子は男子よりさらに短くなっている。その内訳を表1でみると社会的時間が1時間程度で、文化的時間は男女共に2.5時間程度となっており、先に述べた労働の残余としての「余暇」という性格を強く持つ年代となっている。労働時間の短縮による社会文化時間の確保がこれらの年代の第一の問題である。冬季農閑期の1月と、比較的農作業の少ない夏季農閑期の7月、さらに秋季農繁期の9月の生活時間構成を比較した表2からは、この「余暇」としての社会文化時間の性格をより明瞭に把握できると同時に、もう一つの特徴が指摘される。冬季農閑期にはこれらの年代も社会文化時間が増加し20代男子や50～60代と同じ程度の水準に達するが、夏季農閑期の生活時間構成は秋季農繁期と大差ない。つまりこれらの年代層の労働の主たる担い手としての性格は比較的農作業の少ない農作期間中の農閑期により強く表れ、農作期間中はほとんど労働に明け暮れ、「余暇」時間は季節的に偏って存在しているのである。

次に、50代以降では労働時間の減少にともない社会文化時間が増し、消化といった消極的な意味合いにおいてその内実が問題となる。社会文化時間の内容を表1でみると、交際や地域活動などの社会的時間は横ばいないし減少傾向にあり、労働時間の短縮は文化的時間の増加に直結している。このことは高齢化にともない社会文化的行動に費やすことが可能な時間は増加するものの、社会的行動の場は逆に減少することを意味している。

表2 生活時間構成の季節変化

(単位:時間)

		生理的時間			労働時間				社会文化時間		
		計	睡眠	身の回り	計	農業労働	農外労働	家事	計	社会的	文化的
冬季農閑期 一月	20～29	10.9	8.3	2.6	4.4	1.8	2.1	0.4	7.8	3.6	4.2
	男30～39	12.9	9.7	3.2	7.2	4.8	2.0	0.4	3.9	1.6	2.4
	40～49	11.0	8.7	2.3	6.6	4.6	0.0	1.9	6.4	1.6	4.8
	子50～59	12.1	9.1	2.9	5.0	4.7	0.0	0.3	7.0	1.9	5.1
	60以上	13.2	10.2	3.0	3.0	1.3	0.4	1.3	7.8	1.7	6.1
	20～29	11.0	8.0	3.0	7.4	0.0	3.8	3.6	4.6	1.0	3.6
	女30～39	9.9	7.3	2.5	10.1	4.8	0.0	5.3	4.1	0.7	3.4
	40～49	11.1	8.9	2.3	6.1	2.2	0.0	3.9	6.7	1.9	4.8
	子50～59	11.1	8.3	2.8	5.8	1.0	0.6	4.1	7.1	2.0	5.1
	60以上	13.5	10.8	2.8	1.7	0.3	0.0	1.4	8.8	2.8	6.0
夏季農閑期 七月	20～29	8.1	5.8	2.3	8.4	8.4	0.0	0.0	7.6	6.0	1.6
	男30～39	11.3	7.7	3.6	10.9	10.2	0.0	0.7	1.8	0.0	1.8
	40～49	10.5	7.9	2.6	11.3	10.1	0.0	1.2	2.2	0.2	2.0
	子50～59	11.1	8.0	3.1	9.0	8.8	0.0	0.2	3.9	2.2	1.7
	60以上	13.6	9.1	4.5	8.0	4.9	0.7	2.3	2.4	0.8	1.7
	20～29	10.3	7.6	2.8	9.8	4.9	1.7	3.3	3.6	0.3	3.4
	女30～39	9.9	7.3	2.6	11.1	6.8	0.0	4.3	3.0	1.1	1.9
	40～49	10.1	7.5	2.6	12.7	9.5	0.0	3.1	1.2	0.0	1.2
	子50～59	9.7	7.2	2.5	12.3	6.8	0.0	5.5	2.0	0.5	1.6
	60以上	11.5	8.7	2.8	10.1	3.5	0.0	6.5	2.4	0.9	1.5
秋季農閑期 九月	20～29	9.9	7.0	3.0	12.3	12.2	0.0	0.1	1.8	0.0	1.8
	男30～39	10.9	7.7	3.3	11.2	11.2	0.0	0.0	1.9	0.4	1.5
	40～49	10.3	7.4	2.9	12.2	12.2	0.0	0.0	1.5	0.2	1.3
	子50～59	13.4	7.2	6.2	8.8	8.8	0.0	0.0	1.8	0.0	1.8
	60以上	12.7	8.3	4.4	7.0	5.6	0.7	0.8	4.2	1.3	2.9
	20～29	9.6	7.2	2.4	12.2	3.8	3.2	5.1	2.2	0.0	2.2
	女30～39	10.4	7.3	3.1	11.3	8.9	0.7	1.7	2.3	1.3	1.1
	40～49	10.3	7.0	3.3	12.5	10.0	0.0	2.5	1.2	0.2	1.0
	子50～59	12.1	7.4	4.7	10.3	6.2	0.0	4.1	1.6	0.0	1.6
	60以上	12.3	8.6	3.8	7.5	2.3	0.0	5.2	4.1	1.0	3.2

注1) 生活時間調査による。

最後に青年層であるが20代男子は社会文化時間の中で文化的時間を社会的時間が上回る唯一の年代であり、ここに社会文化活動の特徴がある。もう一つの特徴は社会文化活動が年間の広い時期に渡って行われていることである。表2でみると秋季農閑期の生活時間構成は30～40代男子と同じであるが、夏季農閑期の生活時間構成は秋季農閑期よりも冬季農閑期に近く社会的時間が多くなっている。

これに対し20代女子は同じ青年層でありながら、表1・2にみるように年間を通じ、最も社会的時間の短い年代となっている。高齢世代とは別の意味で社会的行動の場の制約があるとみられる。

3 行事参加の特徴

次に非日常的な社会文化行動として、各種行事への参加の実態について検討しよう。調査集落は後出表7の3集落で、このうち29戸を調査した。経営形態は畑作経営と有畜経営に2分し、世代は経営主との続柄によって3つに分けている。経営主世代は主として30～50代であり、父母世代は50代～70代、後継者世代は20～30代に分布している。年齢別集計をとらなかったのは各種行事・組織への参加が経営・家庭内の役割に基づくものが多いことを念頭においたためである。

1) 行事・スポーツへの参加状況

全村的に行われる行事とスポーツの参加状況について表3でみておこう。この調査では全村民を対象として開催されている9行事と、スポーツ6種目を取り上げ、過去1年間の参加を調査農家の全ての世帯員について聞き取ったものである。スポーツ6種目のうち2種目は大会であり、4種目は年間を通した教室とやや性格を異にしている。

表3 行事・スポーツ参加回数 (単位：回)

		畑 男子	作 女子	有 男子	畜 女子
行 事	平均	3.1	2.8	1.6	2.7
	経営主世代	3.5	3.4	2.5	3.2
	父母世代	2.7	2.4	1.2	2.4
	後継者世代	3.5	4.0	1.3	5.0
ス ポ ー ツ	平均	1.6	1.0	0.7	0.5
	経営主世代	1.4	1.2	1.1	0.9
	父母世代	0.5	0.2	0.3	0.2
	後継者世代	1.8	1.5	0.3	0.0

注1) 農家調査(1988年)による。

2) スポーツは参加種目数。

行事・スポーツともに経営形態・性別・続柄の違いがみられる。経営形態による行事参加回数の差は、女子よりも男子に多くなっている。行事の平均参加回数は、畑作経営では男子3.1回、女子2.8回と男子が多く、有畜経営では逆に男子の1.6回に対して女子2.7回と逆に女子が上回る。世代別にみると畑作では後継者世代と経営主世代に行事の参加回数が多く、父母世代に少ない。有畜経営でも経営主世代と後継者の妻の参加回数が多く、農作業の中心的な担い手とみられる世代の行事参

加が目だっている。

スポーツでは、畑作経営の男子 1.6、女子 1.0種目に対し、有畜経営ではそれぞれ 0.7、 0.5種目と平均 1 種目を割り、有畜経営ではスポーツにほとんど参加しないものが多い。続柄別では、畑作は経営主世代と後継者世代の参加種目が多く行事と共通する傾向を示すが、後継者世代の種目数が経営主世代よりも多く、スポーツ参加が畑作経営の後継者世代の特徴を示すものとなっている。有畜経営では参加の大半は経営主世代で、畑作と比較すると後継者世代の参加の低さが目立つ。このように同じ後継者でも、有畜経営の後継者は行事やスポーツの参加の少ないという経営形態の違いが捉えられる。

2) その他の行事・組織の参加状況

次に、集落行事以外の行事やその主体である組織への参加について検討しよう。表 4 は、先に取り上げた行事・スポーツと集落行事以外で参加した行事について整理したものである。調査農家の世帯員の参加した行事は「旅行」、「研修」、「遊び」、「イベント」の 4 つに大きく分けられる。この中で、研修目的でも村外での宿泊を伴うものはすべて「旅行」とし、「研修」は村内で 1 日だけのものとしている。「イベント」は各種大会が主な内容で、「遊び」はレクリエーション的なものです。また、表示されていないのは全く参加者のいない続柄である。

表 4 その他の行事の参加内容と主催団体

(単位：人、%)

		参加者割合	行 事				主 催 団 体						
			旅 行	研 修	遊 び	イ ベ ン ト	農 業 組 織	年 令 性 別	行 政	年 令・ 性 別	教 育 関 係	生 産 組 織	そ の 他
畑作経営	経営主 妻 父 母 継 承 者 妻	61.1	5	3	5	2	5	-	-	-	5	4	2
		55.6	6	5	5	2	4	2	1	-	5	3	5
		30.0	4	-	1	-	3	-	-	-	-	1	-
		10.0	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-
		37.5	2	2	-	2	2	-	-	4	-	-	-
		16.6	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
畜産経営	経営主 妻 継 承 者	40.0	4	2	1	3	5	1	-	-	4	-	1
		22.2	-	1	-	4	-	-	-	-	5	-	-
		50.0	2	1	-	-	3	2	-	-	-	-	-

注 1) 農家調査(1988)による。

まず、これらの行事の参加者割合をみると、ここにも有畜経営の低さが表れている。畑作経営では全ての続柄に参加者がいるが、有畜経営の父母世代と後継者の妻の参加は皆無である。性別では男子の方が女子よりも高く、これら行事の参加は男子が主体となっていることがわかる。特に、泊まりがけ参加の「旅行」は女子では畑作経営の経営主妻にしかなく、有畜経営の女子は村外に出る機会に乏しいということが知られる。世代別では、畑作経営は行事・スポーツと同じく経営主世代の参加者割合が高いが、後継者世代は父母世代と同程度と低くなっている。有畜経営では、逆に後継者の参加者割合が経営主よりも高いという、行事・スポーツとの違いがある。

参加した行事の内容は世代間に大きな違を認めることはできないが、その主催団体に違いがあり、これが各世代の行動の特徴を示すものとなっている。経営主の参加行事は「農業組織（農協部会など）」、「教育関係（PTAなど）」、「生産組織」に集中し、家あるいは経営を代表しての公的な行事参加が多くなっている。経営主の妻、特に畑作ではこれらの公的な行事参加の他に、その他組織や農業組織中でも年齢・性別組織などのやや個人的資格での行事参加が多く、後継者では年齢性別組織が大半を占める。

村内にはこれらの行事主催組織以外に、日常的な活動に中心をおいている目的別組織が存在する。表5でこれらの組織活動への参加状況をみると、経営主、父母世代と後継者の妻に参加者が少なく、経営主の妻と後継者に個人的資格による組織参加者が多いという共通した傾向が認められる。

表5 目的別組織への参加状況

		(単位：％、人)									
		男 子					女 子				
		参加率	文化	趣味	運動	生活	参加率	文化	趣味	運動	生活
畑作	経営主世代	38.9	-	2	7	2	55.6	-	-	4	9
	父母世代	20.0	1	1	-	-	30.0	3	-	2	-
	後継者世代	62.5	-	-	6	-	0.0	-	-	-	-
有畜	経営主世代	30.0	-	3	-	-	11.1	1	-	-	-
	父母世代	16.7	1	-	-	-	44.4	3	1	-	2
	後継者世代	0.0	-	-	-	-	0.0	-	-	-	-

- 注1) 農家調査(1988年)による。
 2) 参加者率は、目的別組織の一つ以上参加している人の割合。
 3) 実数は組織の参加人数である。

以上のように経営形態や続柄によって行事参加は異なり、その特徴は表6のようになる。畑作経営は有畜経営よりも全体的に各種行事への参加が多くなっている。これは有畜経営の社会文化時間の少なさによるものと理解される。世代別には経営主は多くの行事に参加するがそれは家または経営の代表としての性格が強く、個人的な志向や趣味に基づく組織・行事参加が少ないという特徴を持っている。経営主の妻は同様に行事参加の頻度が高いが、その中には家や経営の代表としての参加と個人的な行事参加の双方を含んでいる。父母世代の行事・スポーツ参加は3世代の

表6 行事・組織参加の総括表

		行 事	ス ポ ーツ	そ の 他 参 加	行 事 主 催 組 織	目 的 別 組 織
畑 作	経 営 主	多	中	多	農 業	中
	後 継 者	多	多	中	農 業 年 齢 性 別	多
	後 継 者 妻	多	中	少	各 種 一 性 別	多
有 畜	経 営 主	中	中	中	農 業 年 齢 性 別	中
	後 継 者	少	少	無	年 齢 性 別	少
	後 継 者 妻	多	少	無	教 育 一 一	無

中で最も低くなっており、前項でみたように高齢化にともなって社会文化時間が増加するのにも関わらず、組織・行事参加の機会が乏しいという実態がうかがえる。後継者世代では、全村行事よりもスポーツや年齢別組織・行事の参加に世代としての行動の特徴を有している。他方、後継者の妻は配偶者の活発さの一方で、行事・組織の参加が少なくなっている。これは、20代女子の社会的時間の少なさや目的別組織への参加が皆無な点にみるように、労働時間が長いのみならず社会的な活動の場が与えられていないことを示すであろう。

4 行事のもち方と参加度

前節では、全村的な広がりを持つ行事や組織活動を検討し、経営形態、世代別の特徴をみてきた。そこでは世代ごとの行動の違いと同時に経営形態による差も大き

いことが把握された。これは前稿でも指摘したように経営形態間の生活構造の差の大きさと、それによる農村のまとまりの脆弱性を意味するものである。こうした経営形態間の生活構造の違いを超えた参加の場をつくることが、農村のまとまりの維持の上でも地域社会の問題となろう。

そこで、農家間のつながりの最も基礎的な範囲である集落の行事の持ち方と、全村的行事の取り組み方を検討しよう。

1) 集落の構造と行事

中札内村は1960年代に全村法人化に取り組んだ過程において、それまでの伝統的な農家結合の単位であった”部落”を解体し、法人と小组合を単位とし、作物別の部会を中心とする新しい農家結合システムを作り上げてきた⁴⁾。しかし、旧来の部落を範囲とする農家結合は、現在でも行政の末端組織としての自治会として存続しており、集落は農業生産よりは行政、生活面での機能に純化して存在しているという特徴を持っている⁵⁾。

調査した3集落は、表7の農家構成になっている。A集落は畑作経営と有畜経営の混在する戸数規模の小さい集落で、有畜経営の3戸の内訳は、酪農が1戸で残りは養鶏である。B集落は畑作経営のみの、村内では中程度の戸数規模の集落、C集落は同じ戸数規模の畑作経営と有畜経営の混在集落で、有畜経営7戸は酪農が5戸、養豚が2戸となっている。この3集落を調査地としたのは集落戸数規模による違いをA・C集落の比較で、経営形態の同質度の違いをB・C集落の比較でみるためである。

表8は参加者別の行事数、表9はその内容を示したものである。行事数は集落によって異なり、最も行事数の多いC集落では16行事を数え、他方A・B集落間ではそれぞれ9、10行事と大差はない。集落規模が反映しているとみられるのは、行事の総数ではなく参加者別の行事構成である。戸数が少なく集落人口の少ないA集落では婦人部独自の行事、経営主あるいは世帯主だけが参加する行事が少なく、代わって成人全員の新年会存在する。他の2集落では世帯主と婦人部で別に行われている行事である。A集落では年齢・性別組織ごとに新年会を行うと参加人数が少なすぎるため、成人全体という持ち方をしている。また、A集落では老人会行事が2行事存在するが、B・C集落の老人は複数の集落にまたがる地区老人会に参加しているので、これを差し引くとA集落の行事数は7でB集落の3分の2、C集落の半分となり、集落戸数規模は年齢・性別組織行事の有無を通じて行事の持ち方に影響し

ているとみられる。

行事の内容は、新年会、春・秋祭り、忘年会という各集落に共通する季節行事と、旅行やキャンプ、慰労会などのレクリエーション行事とに大別される。レクリエーション行事ではA・B集落はキャンプや旅行等の泊まりがけ行事が夏季に行われているが、C集落では泊まりがけ行事としては世帯主が参加の初集会があるだけでとなっている。また、集落全員を対象とするレクリエーション行事は3集落とも行なっていない。

表7 調査集落の構成
(単位：戸)

集落	A	B	C
戸数	7	14	13
畑作	4	14	6
同産	3	—	2
畜産	—	—	5

表8 参加者別の集落行事数

参加者	A	B	C
行事合計	9	10	14
経営主・世帯主	3	6	7
成人全員	1	—	—
婦人	1	3	3
老	2	—	—
集落全人員	2	1	4

注1) 調査時点(1988年)

表9 調査集落の行事内容と参加者

月	A	B	C
1	新年会(成人)	新年会(世帯主) 新年会(婦人部)	新年会(世帯主) 初集会(世帯主) 研修旅行(婦人部)
4	春祭り(世帯主)	春祭り(世帯主)	春祭り(世帯主) 旅行(世帯主)
6	花見(全員) 花見(老人会)	敬老温泉旅行(全員)	豊作祈願祭(全員)
7	キャンプ(全員)	旅行(経営主) 馬頭祭(経営主)	
8			馬頭祭(世帯主) 盆踊り(全員)
9	秋祭り(世帯主)	秋祭り(世帯主)	研修旅行(婦人部) 秋祭り(世帯主)
11			慰労会(全員)
12	忘年会(世帯主)	忘年会(世帯主) 忘年会(婦人部)	忘年会(世帯主) 忘年会(婦人部)
不明	温泉(老人会) 旅行(婦人部)	旅行(婦人部)	

注1) 農家調査(1988年)から作成。

2) ()内が当該行事の参加者である。

るが、村外にまで行くものは畑作集落であるB集落の温泉旅行だけである。一方、有畜経営を含むA・C集落では開催地を村内もしくは集落内とする2つ以上の全員参加行事をもっている。特に有畜経営の比重が高いC集落では、年4回程集落会館を利用した親睦会や慰労会などの行事が行われている。B集落の全員参加行事が温泉旅行1回のみであるのと比較すると、C集落の年4回に及ぶ慰労会は、それぞれが畑作・酪農の農作業が一段落した時期に設定されているように、有畜農家を含み集落全員での旅行などは無理という条件の下で、経営形態の違う農家間のまとまりを意識した行事の持ち方である。

以上の様に、集落行事は集落の規模や経営形態の構成によって、その回数や内容が違っている。集落は最も基礎的な農家集団であり、構成員の参加を保障することが行事に求められる。そのための創意工夫が各集落の行事の持ち方の違いとなっているのである。

2) 行事の参加度の規定要因

全村的行事やスポーツ企画は集落行事とは違い、全村民の参加を得るのは実際には不可能であり、また地域社会の歴史の浅い北海道農村においては、地域社会の層として定着した地域行事が少なく、多くの村民の参加を期待するにとどまる。実態としても、表3でみたように行事の平均参加回数が行事数の3分の1程度にとどまることがこのことを如実に示している。裏返して言うならば、地域固有の生活層をつくるための試行が繰り返されている状況なのであるが、これまでみたように参加主体の生活行動が経営形態・世代・性別によって多様であることがこれをさらに困難にしている。

経営形態・性別・世代を問わず人々が集合するような場を作るポイントを、表10・11の参加率の高い行事内容から検討してみたい。参加率の高い「生協まつり」と「収穫感謝祭」の2つ行事に共通するのは主催者の性格、参加形態、開催時期である。「生協まつり」では主催団体の構成主体である婦人層が、「収穫感謝祭」は農協青年部が中心となって企画・運営を行っている。これらの主体は共に地域社会で大きな力を持ったリーダーではなく、市井の人々の集まりであるという点と、年代別・性別組織である点が注目される。さらに「生協まつり」では農協青年部が出店（バザー）を出したり、「収穫感謝祭」では野菜生産組合や生活経営推進委員が即売を行うなど、多くの組織に「行事を作る」主体が広がっている。人々はこれらの組織に参加することで、社会文化的行動の場を得ているのである。また、行事内

表10 各行事への家単位の参加率

(単位：%)

	開催 時期	計	畑作 経営	有畜 経営	開催団体
平均数		4.1 (2.2)	4.3 (2.6)	3.6 (1.5)	
郷土作り大会	2 / 上	35.7 (10.7)	55.6 (16.7)	- (-)	(主) 教育委員会
冬まつり	2 / 上	28.6 (10.7)	33.3 (11.1)	20.0 (10.0)	(主) 観光協会 (協) 各種団体
チャリティ かわり	2 / 下	28.6 (10.7)	33.3 (11.1)	20.0 (10.0)	(主) 大会実行委員会
農業祭	6 / 中	21.4 (7.1)	16.7 (5.6)	30.0 (10.0)	農業関係団体 (畜産)
やまべ 放流祭	7 / 上	64.3 (35.7)	72.2 (50.0)	50.0 (10.0)	(主) 観光協会 (後) 村・NHK帯広
生協 まつり	8 / 20	89.3 (60.7)	88.9 (66.7)	90.0 (50.0)	(主) 生活協同組合 (協) 農協青年部
秋 まつり	9 / 上	39.3 (21.4)	44.4 (27.8)	30.0 (10.0)	(主) 大会実行委員会 (商工・農業関係団体)
のぞみ園 収穫祭	9 / 下	10.7 (10.7)	5.6 (5.6)	20.0 (20.0)	(主) 中札内のぞみ園 (後) ポロシリ福祉会
収穫 感謝祭	11 / 23	71.4 (46.4)	72.2 (55.6)	70.0 (30.0)	(主) 実行委員会

注1) 農家実態調査(1988年)により作成。

2) () は家族全員で参加した家の割合。

3) 開催団体は、(主)：主催、(後)後援、(協)協賛・協力、である

表11 スポーツの種目別参加率

(単位：%)

	ソフト ボール	ゲート ボール	卓球	ミニ ハッレー	バドミントン
合計	92.9 (14.3)	25.0 (-)	14.3 (3.6)	35.7 (7.1)	39.3 (7.1)
畑作経営	94.4 (16.7)	16.7 (-)	22.2 (5.6)	50.0 (11.1)	50.0 (11.1)
有畜経営	90.0 (10.0)	40.0 (-)	- (-)	10.0 (-)	20.0 (-)

注1) 農家調査(1988年)より作成

2) ()内は家族全員の参加率。

容では生協まつりの盆踊りや収穫感謝祭の競技など、単なる見物ではなくその中に参加することに重点がおかれています。このように「行事を作る」あるいは「参加」側に多くの人々が立てるとというのが魅力ある行事のポイントになっている。

次のポイントは開催時期であろう。「生協まつり」は畑作の小麦収穫後、「収穫感謝祭」は秋の収穫後と農作業の節目に行われている。家族全員での参加率の比較的高い「やまべ放流祭」や「秋まつり」も農作業の合間の時期である。一見時間の余裕がありそうな冬季間行なわれる行事の参加率が高くないのと対象的である。農作業の合間の楽しみというのが、多くの人々が参加する行事の魅力となっており、これは集落行事の持ち方と共通している。

参加基盤としての集落のウェートも大きい。生協まつりでは、集落ぐるみチームでの仮装盆踊り参加が参加率を高める大きな要因になっているし、スポーツでは集落ごとの対抗戦であることが、ソフトボールの突出した参加率の高さにつながっている。このことは、集落内行事のみならず、村レベルの活動においても集落のまとまりが重要であることを示している。

5 社会文化活動の場の重要性－農村生活の魅力を高めるために－

これからの農家・農村は、従来のように「農業所得の増大」のみの価値観で維持していくことは困難であろう。近年、国内農業に対する産業としての社会的評価の低下と、経済環境の悪化に対して、農業の有する自然環境的優位性や、他産業と異なる労働価値や生活価値を唱える論調が強くなっている。また、村おこしにおいても、特産品開発のような経済向上のみでなく、農村環境の整備や農村の魅力づくりに力点がおかれるようになってきているようにみられる。しかし、新規就農者の減少傾向は持続しており、そうした価値観の転換やむらづくりの努力は若者の意識をつかみきっていないのが実状である。生活においても魅力ある農業・農村を形成することが急務であるが、それには農業に携わる人々が生活を楽しむ時間と場を作ることが必要である。

そのために改善すべき条件は、生活時間構成の分析が示すように農業労働の季節性を前提としながらも長時間労働を解消する方向に、農法変革が図られることがまず必要である。にも増して重要性が高いのは社会的・文化的行動の「場」を作っていくことであろう。行事の参加状況にみたように社会的行動の大きさや行事参加の

頻度は、組織への参加を媒介としている。こうした様々な農村組織の活動また多くの人々を参加させる行事に結節し、地域行事を活性化させている。逆に、こうした組織参加の「場」の与えられていない青年女子や後継者の妻、高齢者はその活動領域が家庭内にとどまることになっているのである。

注：

- 1) 松木靖・吉野宣彦・安延久美「大規模畑作地帯における農家の生活構造（第1報）－生活時間の経営形態別検討－」（北海道大学農業経営学教室『農業経営研究』第16号、1990年）。なお、生活時間の調査・分類・分析方法については、同4～6頁を参照されたい。
- 2) 同上、25～27頁
- 3) こうした農家の異質化による地域社会維持の問題は、兼業化が早くに振興した府県農村においては以前から指摘されてきた問題である。北海道においては比較的近年まで農家の同質性が保たれてきたとみられるが、畑作地帯のみならず水田地帯においても、兼業化や野菜導入などの土地利用の変化によって農家の結合の維持が困難になってきている。
- 4) 中札内村の全村法人化運動と農村社会の変化については、矢島武ほか『農業法人と協同組合』（農政調査委員会「日本の農業」14、1962年）および大山信義『鶴が消えた村－北海道の社会形成試論』（北海道新聞社、1988年）、107～151頁、を参照のこと。
- 5) 中札内村の集落組織および農村システムについては、柳村俊介「畑作集落の構造と生産組織－十勝畑作地帯中札内村の事例－」（北海道大学農学部『農経論叢』第42集、1986年）を参照のこと。

付表－1 月別の生活時間構成（男子10代～20代）

		生理的時間			労働時間				社会文化時間			学校
		計	睡眠	身の回り	計	農業労働	農外労働	家事	計	社会的	文化的	
男子10代	1	10.7	8.4	2.3	0.2	0.2	0.0	0.0	3.6	0.1	3.5	9.5
	2	11.0	8.8	2.2	1.0	0.7	0.0	0.4	5.0	0.0	5.0	6.9
	3	11.2	8.5	2.7	0.3	0.1	0.0	0.2	4.1	0.1	4.0	8.4
	4	10.5	8.3	2.2	4.3	1.8	2.5	0.0	3.6	0.9	2.8	5.6
	5	9.1	7.1	2.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9	13.4
	6	9.9	8.5	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.8	5.1	8.3
	7	11.2	8.9	2.3	0.3	0.3	0.0	0.0	7.2	0.0	7.2	5.4
	8	10.4	8.1	2.3	3.0	0.0	3.0	0.0	3.3	0.0	3.3	7.4
	9	10.0	8.2	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	0.0	3.5	10.5
	10	10.2	7.8	2.4	2.8	2.8	0.0	0.0	3.3	0.0	3.3	7.8
	11	10.6	8.0	2.6	0.1	0.0	0.0	0.1	3.2	0.3	3.0	10.1
	12	11.3	9.0	2.3	0.2	0.2	0.0	0.0	3.9	0.2	3.7	8.7
20代	1	10.9	8.3	2.6	4.4	1.8	2.1	0.4	7.8	3.6	4.2	0.9
	2	12.4	9.6	2.8	7.4	6.2	0.9	0.3	4.2	0.0	4.2	0.0
	3	11.5	8.1	3.3	7.0	2.7	3.7	0.6	4.2	2.3	1.8	1.4
	4	11.6	9.6	2.0	4.1	3.8	0.0	0.3	7.8	4.0	3.8	0.0
	5	10.8	7.2	3.6	7.5	7.5	0.0	0.0	4.1	1.7	2.4	1.6
	6	9.5	6.9	2.6	8.8	8.7	0.0	0.1	5.7	4.8	0.9	0.0
	7	8.1	5.8	2.3	8.4	8.4	0.0	0.0	7.6	6.0	1.6	0.0
	8	8.8	6.7	2.1	13.0	11.1	1.8	0.1	2.3	1.0	1.3	0.0
	9	9.9	7.0	3.0	12.3	12.2	0.0	0.1	1.8	0.0	1.8	0.0
	10	10.3	7.6	2.6	10.4	10.4	0.0	0.0	3.3	0.8	2.6	0.0
	11	10.7	8.1	2.6	8.3	5.6	2.3	0.4	4.0	1.1	2.8	1.0
	12	11.6	8.2	3.4	7.2	4.1	1.9	1.1	5.2	3.1	2.1	0.0

付表－２ 月別の生活時間構成（男子30代～女子10代）

		生理的時間			労働時間				社会文化時間			学校
		計	睡眠	身の回り	計	農業労働	農外労働	家事	計	社会的	文化的	
男子 30代	1	12.9	9.7	3.2	7.2	4.8	2.0	0.4	3.9	1.6	2.4	0.0
	2	11.7	8.5	3.1	6.7	6.3	0.0	0.4	5.7	2.9	2.8	0.0
	3	12.1	8.5	3.6	9.8	8.6	1.0	0.2	2.1	0.3	1.9	0.0
	4	11.0	8.6	2.4	8.9	7.9	0.2	0.9	4.1	1.7	2.4	0.0
	5	11.4	8.9	2.4	8.8	7.6	0.0	1.1	3.9	2.0	1.9	0.0
	6	11.1	8.3	2.8	9.7	9.4	0.3	0.1	3.2	1.3	2.0	0.0
	7	11.3	7.7	3.6	10.9	10.2	0.0	0.7	1.8	0.0	1.8	0.0
	8	12.2	8.8	3.3	10.0	9.7	0.0	0.3	1.9	0.3	1.6	0.0
	9	10.9	7.7	3.3	11.2	11.2	0.0	0.0	1.9	0.4	1.5	0.0
	10	10.8	8.1	2.6	10.4	10.3	0.0	0.1	2.9	1.8	1.1	0.0
	11	11.1	8.3	2.9	9.0	7.0	1.6	0.4	3.6	0.4	3.1	0.0
	12	10.6	8.0	2.7	6.7	6.2	0.0	0.5	6.5	1.8	4.7	0.0
40代	1	11.0	8.7	2.3	6.6	4.6	0.0	1.9	6.4	1.6	4.8	0.0
	2	11.5	8.4	3.1	6.7	6.7	0.0	0.0	5.9	3.4	2.6	0.0
	3	12.9	9.3	3.6	5.8	5.5	0.0	0.3	5.4	2.3	3.0	0.0
	4	11.0	8.8	2.2	5.1	4.8	0.0	0.3	8.0	5.3	2.7	0.0
	5	10.3	7.1	3.3	10.4	10.4	0.0	0.0	3.3	1.8	1.5	0.0
	6	11.6	7.8	3.8	10.3	9.7	0.0	0.6	2.2	0.8	1.5	0.0
	7	10.5	7.9	2.6	11.3	10.1	0.0	1.2	2.2	0.2	2.0	0.0
	8	10.3	7.0	3.3	12.1	12.1	0.0	0.0	1.6	0.5	1.1	0.0
	9	10.3	7.4	2.9	12.2	12.2	0.0	0.0	1.5	0.2	1.3	0.0
	10	10.9	7.6	3.3	10.6	10.2	0.0	0.4	2.5	0.9	1.6	0.0
	11	11.0	8.3	2.7	8.9	5.9	2.5	0.5	4.0	0.8	3.2	0.0
	12	10.6	8.7	2.0	8.1	4.8	1.5	1.8	5.3	1.1	4.2	0.0
50代	1	12.1	9.1	2.9	5.0	4.7	0.0	0.3	7.0	1.9	5.1	0.0
	2	12.1	9.0	3.1	5.1	4.0	0.8	0.3	6.8	2.9	3.9	0.0
	3	11.1	8.0	3.2	4.1	3.9	0.0	0.2	8.8	4.8	3.9	0.0
	4	10.1	7.8	2.4	4.6	4.3	0.0	0.3	8.1	3.0	5.1	0.0
	5	10.5	7.9	2.7	11.4	10.5	0.0	0.9	2.0	0.5	1.6	0.0
	6	10.6	7.4	3.1	12.0	11.0	0.0	1.0	1.5	0.1	1.3	0.0
	7	11.1	8.0	3.1	9.0	8.8	0.0	0.2	3.9	2.2	1.7	0.0
	8	10.9	8.9	2.1	11.2	10.8	0.0	0.4	2.0	0.0	2.0	0.0
	9	13.4	7.2	6.2	8.8	8.8	0.0	0.0	1.8	0.0	1.8	0.0
	10	10.0	7.2	2.8	12.4	12.1	0.0	0.3	1.6	0.0	1.6	0.0
	11	11.0	8.8	2.2	7.4	6.3	0.8	0.3	5.6	0.3	5.3	0.0
	12	11.4	8.8	2.6	3.8	3.1	0.0	0.7	7.7	2.9	4.8	0.0
60代 以上	1	13.2	10.2	3.0	3.0	1.3	0.4	1.3	7.8	1.7	6.1	0.0
	2	14.7	11.1	3.7	4.0	3.1	0.0	0.9	5.3	1.0	4.2	0.0
	3	12.8	9.4	3.4	4.2	2.9	0.7	0.6	6.9	0.9	6.1	0.0
	4	13.7	9.7	4.0	4.3	3.2	0.7	0.3	6.0	1.8	4.2	0.0
	5	13.7	9.8	3.9	2.9	1.6	0.0	1.3	7.5	3.8	3.7	0.0
	6	12.2	8.6	3.6	7.3	5.5	0.0	1.8	4.4	1.8	2.6	0.0
	7	13.6	9.1	4.5	8.0	4.9	0.7	2.3	2.4	0.8	1.7	0.0
	8	11.5	8.1	3.4	7.3	6.0	0.2	1.1	5.2	0.4	4.8	0.0
	9	12.7	8.3	4.4	7.0	5.6	0.7	0.8	4.2	1.3	2.9	0.0
	10	13.9	8.6	5.3	6.0	4.6	0.0	1.5	4.1	0.6	3.5	0.0
	11	13.0	9.6	3.4	4.4	3.2	0.4	0.8	6.6	0.1	6.4	0.0
	12	13.8	9.8	4.0	2.6	2.3	0.0	0.3	7.4	0.9	6.5	0.0
女子 10代	1	10.8	8.6	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.5	0.8	4.7	7.7
	2	11.0	8.9	2.1	0.5	0.1	0.0	0.4	4.6	0.0	4.6	7.9
	3	11.4	9.4	2.0	0.8	0.7	0.0	0.2	7.8	0.0	7.8	4.0
	4	10.3	8.3	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0	3.0	0.0	3.0	8.8
	5	10.7	8.3	2.4	2.8	0.0	2.4	0.3	3.9	0.0	3.9	6.7
	6	7.3	5.3	2.0	1.0	0.0	0.0	1.0	6.0	0.8	5.3	9.8
	7	10.3	6.5	3.8	8.0	0.0	8.0	0.0	5.8	0.0	5.8	0.0
	8	9.8	7.9	1.9	0.4	0.0	0.0	0.4	1.0	0.0	1.0	12.8
	9	12.3	9.3	3.0	3.2	0.0	2.8	0.3	2.8	0.0	2.8	5.7
	10	10.1	8.0	2.1	0.5	0.0	0.0	0.5	1.4	0.0	1.4	12.0
	11	10.2	7.7	2.5	1.3	0.0	1.2	0.1	4.2	0.3	3.9	8.4
	12	11.1	8.9	2.3	0.4	0.0	0.0	0.4	2.1	0.0	2.1	10.4

付表-3 月別の生活時間構成(女子20代~60代)

		生理的時間			労働時間				社会文化時間			学校
		計	睡眠	身の回り	計	農業労働	農外労働	家事	計	社会的	文化的	
20代	1	11.0	8.0	3.0	7.4	0.0	3.8	3.6	4.6	1.0	3.6	1.0
	2	12.6	9.8	2.9	7.7	3.2	1.8	2.7	3.7	0.4	3.3	0.0
	3	10.5	7.5	3.0	10.0	3.2	3.6	3.1	3.6	1.2	2.3	0.0
	4	10.1	7.4	2.8	7.9	1.5	3.4	3.0	6.0	2.4	3.5	0.0
	5	10.4	7.6	2.8	12.1	4.1	0.0	8.0	1.5	0.0	1.5	0.0
	6	11.9	8.5	3.5	6.5	2.5	0.8	3.2	5.7	0.9	4.8	0.0
	7	10.3	7.6	2.8	9.8	4.9	1.7	3.3	3.6	0.3	3.4	0.3
	8	11.7	8.1	3.6	10.1	2.9	2.6	4.5	2.2	0.3	1.9	0.0
	9	9.6	7.2	2.4	12.2	3.8	3.2	5.1	2.2	0.0	2.2	0.0
	10	11.0	7.8	3.2	11.5	9.3	0.0	2.2	1.5	0.0	1.5	0.0
	11	10.9	8.3	2.6	8.6	0.4	3.1	5.1	3.4	0.3	3.1	1.0
	12	10.9	7.4	3.5	11.3	1.7	3.0	6.6	1.8	0.0	1.8	0.0
30代	1	9.9	7.3	2.5	10.1	4.8	0.0	5.3	4.1	0.7	3.4	0.0
	2	10.7	8.6	2.1	10.2	3.1	0.6	6.5	3.1	1.1	2.0	0.0
	3	10.6	7.1	3.5	10.1	4.9	1.7	3.5	3.3	0.6	2.7	0.0
	4	9.4	7.1	2.2	11.6	5.0	0.0	6.6	3.1	1.9	1.1	0.0
	5	12.1	7.0	5.1	9.3	5.0	0.0	4.3	2.6	2.6	0.0	0.0
	6	9.8	7.6	2.1	11.1	4.6	0.0	6.5	3.2	1.1	2.1	0.0
	7	9.9	7.3	2.6	11.1	6.8	0.0	4.3	3.0	1.1	1.9	0.0
	8	10.1	7.2	2.9	12.3	5.0	1.7	5.6	1.7	0.1	1.6	0.0
	9	10.4	7.3	3.1	11.3	8.9	0.7	1.7	2.3	1.3	1.1	0.0
	10	9.6	7.2	2.4	12.0	7.5	0.0	4.5	2.4	0.5	1.9	0.0
	11	11.1	8.2	2.9	10.3	3.8	0.8	5.7	2.7	0.7	2.0	0.0
	12	10.8	7.8	3.0	9.9	3.8	0.0	6.1	3.4	0.7	2.6	0.0
40代	1	11.1	8.9	2.3	6.1	2.2	0.0	3.9	6.7	1.9	4.8	0.0
	2	11.4	7.8	3.6	7.5	4.8	0.0	2.8	5.1	1.6	3.5	0.0
	3	10.7	7.7	3.0	8.7	5.9	0.0	2.8	4.6	1.0	3.6	0.0
	4	9.5	7.5	2.0	9.7	4.6	0.0	5.1	4.8	2.4	2.5	0.0
	5	10.3	7.3	3.0	12.2	7.9	0.0	4.3	1.6	0.8	0.8	0.0
	6	8.6	6.5	2.1	13.0	5.5	1.3	6.3	2.4	0.7	1.7	0.0
	7	10.1	7.5	2.6	12.7	9.5	0.0	3.1	1.2	0.0	1.2	0.0
	8	9.3	6.8	2.5	12.6	10.3	0.0	2.3	2.2	0.5	1.8	0.0
	9	10.3	7.0	3.3	12.5	10.0	0.0	2.5	1.2	0.2	1.0	0.0
	10	13.3	11.3	2.0	8.8	6.5	0.0	2.3	2.0	0.0	2.0	0.0
	11	10.1	7.4	2.6	9.3	4.7	0.4	4.2	4.6	1.6	3.0	0.0
	12	10.8	7.5	3.3	7.1	4.8	0.0	2.3	6.2	1.3	4.9	0.0
50代	1	11.1	8.3	2.8	5.8	1.0	0.6	4.1	7.1	2.0	5.1	0.0
	2	11.9	8.7	3.2	6.7	2.5	0.0	4.2	5.4	1.8	3.6	0.0
	3	11.3	8.2	3.1	5.9	1.0	0.0	4.9	6.8	3.2	3.6	0.0
	4	12.4	8.8	3.6	7.3	2.3	0.0	5.0	4.2	1.1	3.1	0.0
	5	9.5	6.8	2.8	11.9	5.3	0.0	6.7	2.6	0.6	2.0	0.0
	6	9.7	6.9	2.8	12.3	6.3	0.0	6.0	2.0	1.5	0.5	0.0
	7	9.7	7.2	2.5	12.3	6.8	0.0	5.5	2.0	0.5	1.6	0.0
	8	11.2	7.7	3.4	10.5	5.2	0.0	5.3	2.3	0.4	2.0	0.0
	9	12.1	7.4	4.7	10.3	6.2	0.0	4.1	1.6	0.0	1.6	0.0
	10	11.3	8.0	3.2	11.7	7.3	0.0	4.4	1.1	0.0	1.1	0.0
	11	12.4	9.6	2.8	7.6	2.0	0.0	5.6	4.0	0.5	3.5	0.0
	12	10.6	8.3	2.3	5.0	1.5	0.0	3.5	8.3	2.5	5.9	0.0
60代以上	1	13.5	10.8	2.8	1.7	0.3	0.0	1.4	8.8	2.8	6.0	0.0
	2	14.2	10.6	3.6	3.3	0.3	0.0	2.9	6.5	0.8	5.7	0.0
	3	13.2	9.3	3.9	4.3	0.6	0.0	3.7	6.5	0.3	6.1	0.0
	4	13.8	9.7	4.1	6.8	1.4	0.2	5.2	3.1	0.5	2.6	0.0
	5	12.0	8.9	3.1	7.0	1.1	0.0	5.9	5.0	2.6	2.4	0.0
	6	11.7	8.9	2.8	9.3	3.0	0.0	6.3	3.1	0.3	2.8	0.0
	7	11.5	8.7	2.8	10.1	3.5	0.0	6.5	2.4	0.9	1.5	0.0
	8	10.9	8.0	2.9	8.5	0.0	1.1	7.4	4.6	0.9	3.8	0.0
	9	12.3	8.6	3.8	7.5	2.3	0.0	5.2	4.1	1.0	3.2	0.0
	10	12.5	8.5	4.0	10.2	2.5	1.6	6.1	1.3	0.3	1.0	0.0
	11	13.2	9.6	3.6	5.9	1.5	0.0	4.3	4.9	0.8	4.2	0.0
	12	12.1	9.0	3.1	4.8	0.5	0.0	4.3	7.1	1.6	5.5	0.0